

1. 単元名 テーマ別発表会

2. 本時の概要

本時は、中学1年生がこれまで進めてきた個人探究の成果を、ポスターセッション形式で共有する「テーマ別発表会」である。生徒は「科学・数学」「芸術・文学」「社会科学」「スポーツ・保健」「学際・その他」といったカテゴリーごとに分かれ、類似したテーマを持つ仲間に対して発表を行う。

本時を設定する主な理由は、「比較を通じた学びの深化」と「建設的な対話スキルの育成」にある。類似テーマを扱う他者の視点や工夫を自分の探究と比較することで、自分一人では気づけなかった新たな問いや改善点を発見することが期待される。また、質疑応答を「宝探し」の時間（発見・理解・仲間の宝）と定義することで、単なる知識の伝達に留まらず、お互いの探究を尊重し合いながら高め合う協働的な学びの場を創出することを意図している。これまでの活動で培った情報活用能力やプレゼンテーション能力を実践の場で発揮し、次回の振り返りへと繋げる重要なステップとして本時を位置づける。

3. 本時の目標

- **表現の工夫と時間管理:** 前回の反省を活かし、聞き手への視線、声の大きさ、話す速さを調節しながら、ポスターを用いて自身の探究成果を3分以内(±10秒)で効果的に伝えることができる。
- **多角的な視点の獲得:** 類似したテーマを探究した他者の発表を聴講し、自分とは異なる着眼点や調査方法、表現の工夫を、自身の探究と比較しながら学ぶ姿勢を持つ。
- **対話を通じた探究の深化:** 提質疑応答を「宝探し」と捉え、質問者は新たな視点を提供する問いを投げかけ、発表者は感謝と誠実さを持って回答することで、互いの理解を深め合う対話を行うことができる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第21回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
5分	導入:発表会の意義とルールの確認 ・本時の内容(発表の流れ、質疑応答の心得)について説明を受ける。 ・プレゼンで意識する4項目(目線、声、スピード、時間)を再確認する。 ・質疑応答を「宝探し」の時間と捉え、前向きに参加する心構えを持つ。	・「宝探し」という比喻を用い、質問が発表者にとっても「新しい視点の発見」という宝になることを強調し、心理的なハードルを下げる。 ・3分間という制限時間を厳守するよう指導し、タイムキーパーとしての意識を持たせる。
50分	展開1:テーマ別発表会(前半) ・グループAとBに分かれ、指定された場所でポスターセッションを行う。 ・1人3分の持ち時間で発表し、その後2分間の質疑応答を行う。 ・発表者はパーテーションにポスターを提示し、順次発表を入れ替える。	・教室中央のパーテーションを活用し、複数のグループが同時に効率よく発表できる環境を整える。 ・質問が出にくい場合は、スライドに提示された「質問を見つけるヒント」や定型句(「〇〇について詳しく教えてください」等)を参照するよう促す。
【2時限目】		
45分	展開2:テーマ別発表会(後半) ・残りのグループが発表を行い、前半と同様に質疑応答を繰り返す。 ・他者の発表を聴きながら、自分の探究と比較して気づいた点を確認する。 ・発表者は質問に対して、感謝を伝えつつ誠実に回答する。	・発表者が回答に詰まった場合でも、「今後調べてみたいで」といった誠実な対応を肯定的に評価し、学びを継続する姿勢を支援する。 ・全体の進行状況を見守り、10グループ程度の発表が円滑に終わるよう時間を管理する。
終了間際	結び:次回の予告 ・次回に実施するリフレクション(振り返り)の内容について確認する。	・本日の発表で見つけた「宝」を忘れないうちにメモしておくよう促し、次回の振り返り学習がスムーズに始まるよう動機づけを行う。